

第10年度

実践！ 信頼性・品質技術 研究会

経験豊富な講師・委員の指導

多様な業種の参加者メンバーとの議論や意見交換から…

問題解決の糸口を探り スキルと人脈を得る!!

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

日科技連Webサイトに参加会社の声を掲載しています。ぜひご覧ください。

URL：<http://www.juse.or.jp/reliability/>

▶▶「実践!信頼性・品質技術研究会」参加のおすすめ◀◀

近年、科学技術の進歩や生産の海外拠点へのシフト、顧客ニーズの多様化や地球環境への配慮など、企業活動を取り巻く環境は大きく変化しています。また技術力向上が著しい新興国企業とのグローバル競争が激しくなる中で、共存／共栄を図る時代になっています。

品質・信頼性分野でも、機械・電気などの技術区分そのものが陳腐化する一方で、海外への生産委託や仕入れ先管理など品質管理のグローバル化が進み、QMS・ソフト品質・コンプライアンス・安全性の観点での品質保証の必要性が高まっています。

品質不具合の解決には、材料・部品レベルまで遡った原因究明と対策、システム・マネジメントレベルでの問題解決や再発防止を図ることが重要になり、企業の品質・信頼性業務に携わる技術者には、より広く、より深い知識が求められるようになってきました。

本研究会は、様々な業種や企業の現場で実際に業務を行っている技術者が集まり、品質や信頼性に関する諸問題について、最新の事例や課題をベースに議論を行う場です。それぞれの研究分科会で、グローバルに「ものづくり」を進める先端企業の経験と知識を持った運営委員と共に、各企業の状況に合わせた最適なソリューションを一緒に導き出していきます。

タイトルに「実践!」とある通り、一般論ではなく実際に皆さんが抱えている課題を取り上げるのが本研究会の最大の特徴です。通常のセミナーのように受け身で情報を収集するのではなく、Give & Takeの精神で積極的に議論に参加して、自分のスキルを向上させたいと思っている方のご参加を強くおすすめいたします。



実践!信頼性・品質技術研究会
運営小委員会 委員長

平本 抽

ソニー株式会社
R&Dセンター Tokyo Laboratory 28
General Manager

参加者の声

まだまだ勉強したい〜と“クセ”になる
とても有意義な研究会です。

宇都宮 里佐 様

日新電機株式会社
研究開発本部
技術開発推進センター
材料検証グループ
品質保証統括部



「自社以外の品質管理や材料解析技術について勉強してきなさい!」材料劣化に関する共同研究をしていた先生から一喝され、「もの凄く勉強になるから、助けてもらえるから」と勧めて頂いて本研究会の第1研究分科会に参加したのが2年前です。私は材料や部品の検証試験と分析を担う部署にいますが、その視点から品質保証統括部も兼務する事になり、「どの様に展開すれば」と考えていた時です。最初は「経験豊富な方ばかりで、ついていけるかしら」と思いましたが、オープンな困り事相談や活発な情報交換の場に居ただけで毎回成長する実感があり、気付いたら自分の困り事を持ち込んでいました。分科会では「故障解析」のアプローチ、検証分析部署の悩み、製品部門との関係性などについても議論が出来、また分科会を超えたイベントでは、様々な視点からの実情話が聞けて、産業における品質管理の今を感じる事が出来ます。研究会では同じ職種の女性とも出会えて“それあるある”と気兼ねない話もしています。「そろそろ若手に交代しなきゃ、まだまだ勉強したい〜」と“クセ”になるとても有意義な研究会です。

参加者の声

本研究会は、自身と異なる思考の切り口に気付か
され、品質保証マンとしての成長に繋がります。

渡辺 真行 様

プライムアースEVエネルギー株式会社
品質保証部 お客様品質グループ
主事



私は、本研究会の委員だった上司から勧められたのがきっかけで、第6年度より参加させていただいています。皆様、自社の品質活動の方向性が正しいか、自分の考え方が品質保証マンとして正しいのか、不安になることはないでしょうか? 私も仕事が入りまくるに進められなく、悩むことがありました。

そのため、本研究会を通じ、他社／他業界の品質活動内容や考え方を学び、社内品質の改善に貢献しようと考えました。

はじめは一流企業のそれも品質のプロの方々自分が議論に加わることができるのか非常に不安がありましたが、運営委員や参加メンバーの方々が、私のような若手にもフランクに対応していただけたこともあり、私も知識レベルの違いはあっても積極的に議論に参加しようと思うようになりました。

本研究会でのディスカッションの中で、他社／他業界で使われている手法を学んだことで、自社の改善に繋がったこともありました。

同じ品質に関わる先輩方と議論を交わすことで、自分の固定概念と違う切り口に気付かされることから、品質保証マンとして成長できる場だと考えています。

また、他業界の方々と人脈形成できるのも、この研究会の特徴であり、非常に貴重であるため、これからも広げていきたいと考えています。

これを読んでいただいた皆様も本研究会に是非ご参加ください。一緒に議論しましょう!

参加いただくみなさんが主人公です!

参加者のみなさんから信頼性に関する諸問題を提起していただき、それを他の参加メンバーおよび研究会をサポートする信頼性専門技術者(運営委員)と議論する中で、問題解決の糸口を見出していきます。

各研究分科会は、“Give and Take”の精神に基づいて、相互に問題提起、事例発表を行い議論を実施します。研究会の性格上、秘密事項は除き、活発な議論を行っています。

安心して議論を行うため、参加メンバー・運営委員は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない真摯な“ホンネトーク”や“自身が抱える問題や課題の相談”ができるのは“本研究会ならでは”と言えます。

活動内容

本研究会はメンバーおよび運営委員により構成されています。

活動年度は毎年5月に始まり翌年3月に終了します。

本研究会のメンバーは、下記の研究会(例会)に参加して、研究活動を行うことができます。

年間活動スケジュール

開催日		午 前(10:30~12:30)		午 後(13:30~16:50)	
2020年	5月15日(金)	10:30~12:00 オリエンテーション	12:00~14:40 研究分科会① (12:30~13:30 昼食会)	15:00~17:00 全体研究会① 「特別講演」	17:00~18:30 全体懇談会
	6月 5日(金)	見学会(企業・団体の見学)①		研究分科会②	
	9月11日(金)	テーマ別分科会①(ワークショップ)		研究分科会③	
	10月 9日(金)	研究分科会④		研究分科会⑤	
	11月 6日(金)	見学会(企業・団体への見学会)②		研究分科会⑥	
2021年	1月15日(金)	テーマ別分科会②(ワークショップ)		研究分科会⑦	
	3月 5日(金)	10:30~14:00 研究分科会⑧		14:15~16:15 全体研究会③ 「特別講演」	16:15~17:30 全体懇談会

※都合により内容が変更になる場合があります。

1 全体研究会

メンバーと運営委員が一堂に会する「全体研究会」は、特別講演、質疑応答を通じてメンバー相互の啓発、交流を図るために実施します。全体研究会は、特別講演を中心に、5月と翌年3月の2回開催します。

5月に昼食会と懇談会(全員)、翌年3月に懇談会(全員)を開催し、参加メンバー相互の親睦を図ります。

一般参加可能!! 特別講演だけの参加も可能です!!

「特別講演」は、研究会メンバー以外の方でもご参加いただけます。

詳細は随時ホームページで公表します。

- 【第1回】:2020年5月15日(金) 予定
 - 【第2回】:2021年3月 5日(金) 予定
- } at 日科技連 東高円寺ビル

【参加費(税抜)】 1回につき: 10,000円 全2回: 20,000円(研究会メンバーは参加費無料)

研究分科会は、本研究会活動の中心であり、参加メンバーが主役で開催月の7回全ての回で実施します。

分科会の構成は、「メカ」や「エレキ」といった技術領域のボーダーレス化に伴い、「材料」や「マネジメント」、「システム」など、信頼性技術の原理・原則的な色合いの濃い構成にしています。

- 〔第1研究分科会〕 材料・部品解析分科会
- 〔第2研究分科会〕 部品・デバイス(電子部品)分科会
- 〔第3研究分科会〕 機器・システム分科会
- 〔第4研究分科会〕 品質保証分科会



研究分科会では、参加メンバーのみなさんが抱える様々な信頼性に関する諸問題について、事実やデータ等の事例を通して運営委員と共に議論し、問題を正確に把握し、具体的な改善策や解決方法を考えていくといった信頼性の実践的な展開を図るのが大目的です。

したがって、第1～第4の分類は、あくまで主として議論したいテーマであり、関連して改善したい内容に発展したり、脇道に一旦それたようにみえる議論を自由闊達に交わすことも、重要なことだと認識しています。

また、第4研究分科会は品質保証担当者、責任者が集い、QA・QCに関する情報交換なども活発に行われています。

テーマ別分科会(講演・ワークショップ・チュートリアル)

上記「研究分科会」とは別の視点から選定した信頼性テーマについてのワークショップです。

運営委員・メンバーから提案していただいた興味あるテーマの中から、3～5のテーマを設定し、メンバーは希望の「テーマ別分科会」に参加できます。通常の研究分科会と同じくメンバー参加型で、事例やデータを持ち寄って議論をします。また、他の「研究分科会」にも自由に参加できる「合同分科会」を開催し、他分科会にまたがる領域のテーマについても議論を深めることができます。自分の属している「研究分科会」以外の研究分科会メンバーや運営委員と、異なる側面から信頼性の諸問題を議論し、解決方法を考えていくことができ、見聞を大いに広めることができます。

●2019年度実施したテーマ別分科会のテーマ

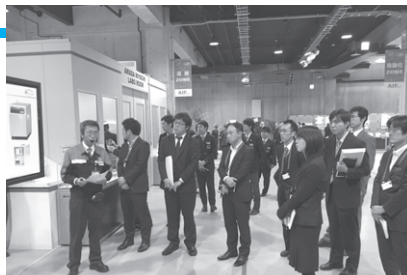
調達部品の良品解析による品質維持、デバイス実装技術と組み立て実装、ユーザー操作や使用に関する問題、品質保証とは何ぞや、腐食による諸問題(硫化を中心に)、ワイブル解析を正しく使うには一変なワイブル編一、信頼性試験の効率化、新規事業に対する品質保証の考え方 など

見学会(企業・団体への見学会)

「百聞は一見にしかず」という言葉通り、座学だけでは幅広い知識は得られません。

時には外に出て、信頼性や品質に関連する最新の技術や設備、他社の取り組み等実際に触れることも有効です。

「見学会」では、企業や公的機関の研究所、製造工場、分析/評価装置メーカーなどを訪問し、見学と交流を行うことで知見を高めます。一般の見学は受け入れていない施設であっても、本研究会のメンバー向けに特別に公開していただける場合もあります。日常の仕事の中では得られない経験をする絶好の機会となること、請け合いです。



◀【見学会風景】
アマダ・ソリューションセンター

【交流会風景】
交流：(株)アマダミヤチ▶



「協力会社：(株)アマダホールディングス」(写真掲載許可)



研究分科会・活動紹介



(敬称略、順不同 委員所属はP.7参照)

第1研究分科会 材料・部品解析分科会

主査 杉谷 全令 副主査 大西 久男 委員 平本 抽、木村 忠正

本分科会では、製品の品質保証・信頼性造り込みへ“材料・部品の解析技術”を如何に活用するかについて、参加者全員で情報共有し全員で考えます。それは、故障の再発防止や未然防止を図るには、材料・部品レベルの解析を通して機能の発現や劣化のメカニズムを理解することが重要だからです。

年間7回の分科会初回には参加者全員の意見を基に各回にテーマを割り付け、以降の分科会では回ごとのテーマに関連した課題や事例、質問などを持ち寄り、参加者全員で共有し意見を交換します。例えば、工程や市場で発生した不具合事例を前に、皆さんはどんなストーリー（仮説）を描き、どんな分析（検証）を選択して、その結果をどのように考察（解析）しますか。お互いが先例を学び、異なる視点での議論を通して、より多くの解析の道筋を持つことができます。もちろん今まさに解決したい問題など突発的な事例や質問は、持ち込みの都度に議論の俎上に上げます。

これまでには以下の項目を取り上げてきました。

①故障／劣化のモードやメカニズム

腐食、磨耗、マイグレーション、ウイスカ、光劣化、変色、アウトガス、クラック、疲労破壊、界面剥離等

②解析技術／計測技術

表面観察（SEM、AFM…）、表面分析（XPS、AES、EDX…）、化学分析（FT-IR、GC-MS…）、各種物性計測等

③信頼性評価方法

温湿度試験、熱衝撃試験、疲労試験、混合ガス腐食試験、耐候（光）性試験、各種再現試験等

本分科会の範疇を超える項目は、他の分科会メンバーを交えたテーマ別分科会や合同分科会での議論の場や、外部の有識者を招いた情報交換の場を用意します。

本分科会の参加者が事例や質問を持ち寄り共に考えることで、問題解決のヒントや、自身の業務課題に向き合う時の知見を得ることができます。さらに、相互に価値のある人の繋がりを得るためにも、ぜひ1枚のスライドでも1行の文章でも発信する積極的な御参加をお待ちしております。

第2研究分科会 部品・デバイス（電子部品）分科会

主査 山口 浩二 副主査 三井 直人 委員 伊藤 卓也、横川 慎二、瀬戸屋 孝、柏木 謙一

本分科会は、エレクトロニクス製品に使用される部品に焦点を当てた研究分科会です。

デバイス・電子機器・ユニット・材料の各メーカ、企業それぞれの立場から、本音で議論できるクローズドでユニークな分科会です。

運営委員は、国内デバイスメーカ、電子機器メーカの品質・信頼性について豊富な経験を持った方々が担当し、参加されるメンバーは、設計・技術・生産・購買・品質保証・品質管理を実践している技術者の方々が構成されています。

取り扱うテーマは、「**部品・デバイスの品質・信頼性技術全般**」です。

①定例テーマ討論

初回到討論したいテーマを発言いただき、回ごとの主テーマを定めます。2回目以降は、そのテーマに従って、自社での取り組みや事例などを発表し合う形式で討論を進めさせていただきます。内容によって、本分科会で十分に討論がしきれない場合は、テーマ別分科会や他分科会との合同討論の実施などで、柔軟に対応させていただき、幅広い討論を行います。

②緊急テーマ討論

直面している電子機器や電子部品で起こっている品質・信頼性の具体的な問題を持ち寄っていただき、幅広い知見に基づき、報告書に明記されることのない真の原因や、その解釈、波及性など多角的な議論を行っています。

事前に課題を分科会のメーリングリストで発信いただければ、参加メンバーが未公表情報を持ち寄り、活発な議論が行われます。

③討論テーマのご紹介

昨年度、様々な議論を行いました。そのキーワードの一例をご紹介します。

- 各種部品固有の品質・信頼性問題
- 認定制度・生産終了品の対応方法・海外部品の採用と諸問題
- 品質とコストのバランス
- 信頼性試験・加速試験・ワイブルの正しい使い方

研究会は、参加いただくメンバー皆様が主人公です。議論内容を持ち寄ることによって、研究会を通じて相互理解を深め、多様な知見から問題解決力を身につけていきましょう。

第3研究分科会 機器・システム分科会

主査 岩下 健児 副主査 勝田 信 委員 原島 瑞靖、門田 靖

本分科会は機器システムメーカーの立場から、優良な製品をお客様に提供するための技術的活動です。

そもそも、システムは品質・信頼性の高い部品・材料を使えば品質・信頼性が確保されるとは限らず、また品質・信頼性が並な部品・材料からでも、高信頼性システムは構築可能です。更に先端の部品よりも旧式なリレーのほうが高信頼性であることも珍しくありません。すなわち部品の信頼性の総和を超える信頼性を達成し、いかなる巨大システムであっても、重大事故は絶対に起こさないのが、システムの信頼性技術者の醍醐味です。

対象となるシステムをどのように捉えるか？について、各種電子機器・メカトロニクス製品・住宅機器・鉄道などの産業領域を対象とし、業界をまたがり横断的に、この高信頼性システム設計に対する課題解決や社会インフラへの影響などの議論を行う分科会であり、議論を通して、多岐にわたる分野やそれぞれの業界の知見に触れることは、参加されるメンバーの気づきとなり、メンバーの課題解決の一助となることでしょう。具体的な議論の対象は、以下に示すような信頼性技術全般を扱っており、参加メンバーが持ち寄ったテーマをもとに機器やシステム全体を対象に活発な議論を行い、課題解決の糸口を見つけてきました。

①信頼性設計など

機器やシステム全体の信頼性を維持するために、設計段階から秩然と信頼性を造り込むためのプロセスや構成部品メーカーや共同開発メーカーとの協業における課題。

②信頼性評価など

妥当性の検証として故障率や寿命を測る基本的手法や、製品開発期間短縮化の中での信頼性試験の在り方、変化することお客様の使い方、環境要件の変化などの評価条件を決めるうえでの課題。

③製品安全・システム安全など

信頼性や品質の延長にある製品安全問題に対しての世の中の動向や各社の取り組み方、フェールが起きても安全にかかわる重大事故に波及しないか、あるいは如何にフェールを起こさないかなど、安全設計に関する課題。

【システムとは？】

「所定の任務を達成するために、選定され、配列され、互いに連係して動作する一連のアイテム（ハードウェア、ソフトウェア、人間要素）の組合せ」

第4研究分科会 品質保証分科会

主査 岡本 直樹 副主査 山下 恭幸

品質保証には、固有技術だけでなく品質管理手法・標準化に代表される管理技術も必要で、本分科会は、固有技術的側面が強い他分科会に比べ、品質保証に関する考え方や組織機能に関するテーマの他に品質管理・信頼性技術の手法等の管理技術的側面のテーマを討議しています。

2019年度の参加者の皆様は、コーポレート及び事業の品質保証部門に所属されている方で、コーポレートの立場や事業部の立場から品質保証や品質改善をテーマに、各社の取り組み事例を紹介いただきながら情報共有し、各自が持っている課題の改善の方向性を持ち帰って頂きました。

主な討議テーマは以下のとおりです。

①品質保証体制／品質保証活動

品質保証は製品開発から日常管理までの各段階で各部門が行う活動です。

ISO 9001:2015や車載用のIATF 16949:2016等、第三者認証が必要なQMSの構築は勿論ですが、各社で品質保証に関する規定を持ち、継続的改善が図られています。如何に品質保証活動のPDCAを回しスパイラルアップを図るかをテーマに議論します。

品質保証体制（品質保証部門の組織体制や品質統制構造）、再発防止（監査・過去トラDB）、未然防止（DR・ゲート管理等の製品保証計画）、品質不正問題、市場品質情報処理（体制・システム）、

②品質管理・信頼性技術の手法

品質保証では欠かせない以下の手法について、上手な活用の仕方をテーマに議論します。

再発防止手法（なぜなぜ分析・FTA・過去トラDB等）、未然防止手法（設計・工程FMEA・DRBFM・SSM等）、統計的品質管理（SQC）、信頼性技術手法（ワイブル解析等）、リスク分析手法

③海外生産における品質管理と仕入れ先の各種変更に伴う品質問題

様々な製品が海外で生産され、かつ、自社生産以外の部品や材料を調達して、品質管理や品質保証を行っている中で、現場で起きている問題や課題をどう解決するか、議論しました。

④その他

品質人材育成や品質管理教育を技術伝承や人材不足というような視点で議論したら、新規事業、新規領域での品質保証の進め方等の議論もしました。

本研究会のような異業種の品質保証部門の方達が集まる研究会は少ないと思います。

「品質保証とは何ぞや」を考え、明日の品質保証のありたい姿と一緒に議論しましょう。

他社ベンチマークや技術研鑽の場として、皆様のご参加をお待ちしております。



過去の参加会社一覧(本研究会前身のRDT研究会の 参加会社も含む)



過去に150社を超える企業に参加いただいています!

愛三工業(株)
アイシン精機(株)
アイシン・エイ・ダブリュ(株)
愛知時計電機(株)
(株)アイテス
アイホン(株)
アイワ(株)
旭化成(株)
旭化成エレクトロニクス(株)
旭化成マイクロシステム(株)
アジレント・テクノロジー(株)
アズビル(株)
(株)アマダミヤチ
アンリツ(株)
アンリツネットワークス(株)
上田日本無線(株)
宇宙開発事業団
エイブリック(株)
エスアイアイ・セミコンダクタ(株)
エスベック(株)
NTTエレクトロニクス(株)
(株)LSI Logic Japan Semiconductor
OLED青森(株)
大阪ガス(株)
大崎電気工業(株)
沖エンジニアリング(株)
沖電気工業(株)
オムロン(株)
オムロンアミューズメント(株)
オムロンセミコンダクターズ(株)
オムロンヘルスケア(株)
オリンパス(株)
鹿島建設(株)
(株)金沢村田製作所
(株)カネカ
カヤバ工業(株)
マレリ(株)
関西電力(株)
菊水化学工業(株)

キーサイト・テクノロジー・
インターナショナル(同)
キヤノン(株)
九州松下電器(株)
グローブライト(株)
グローリー(株)
京セラSLCテクノロジー(株)
(株)ケアコム
コニカミノルタ(株)
(株)小松製作所
コクヨ(株)
コクヨS&T(株)
三洋電機(株)
(株)JVCケンウッド
新電元工業(株)
新日鐵住金ステンレス(株)
新日本無線(株)
GEヘルスケア・ジャパン(株)
スタンレー電気(株)
住友電気工業(株)
住友大阪セメント(株)
住友ベークライト(株)
セイコーインスツル(株)
セイコーエプソン(株)
積水化学工業(株)
ソニー(株)
ソニーイーエムシーエス(株)
ソニーイメージングプロダクツ&
ソリューションズ(株)
ソニーグローバルマニュファクチャリング
&オペレーションズ(株)
ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)
太陽誘電(株)
タカラスタンダード(株)
館山デバイス(株)
ダイキン工業(株)
ダイキン電子部品(株)
ダイニチ工業(株)
(株)ダスキン

(株)タムラ製作所
TDK(株)
(株)ディスコ
デンカ(株)
(株)デンソー
(株)デンソーウェーブ
(株)東海理化
東光(株)
(株)東芝
東芝デバイス&ストレージ(株)
TOTO(株)
東北日本電気(株)
東洋通信機(株)
(株)トキメック
トステム(株)
トヨタ自動車(株)
(株)豊田自動織機
ナイルス部品(株)
日産自動車(株)
日産車体(株)
日新電機(株)
日本アイ・ピー・エム(株)
日本アビオニクス(株)
日本特殊陶業(株)
日本ガイシ(株)
日本電気(株)
日本パナトロン(株)
日本プレジジョン・サーキット(株)
日本モトローラ(株)
(社)日本冷凍空調工業会
(株)ノーリツ
(株)ハイオス
ハリソン東芝ライティング(株)
パナソニック(株)
パナソニックコミュニケーションズ(株)
パナソニック電工(株)
パナソニック電工施設照明(株)
(株)日立小平ケミコン
(株)日立製作所

(株)日立製作所 情報・通信システム社
福島アビオニクス(株)
富士ゼロックス(株)
富士ゼロックスエンジニアリング(株)
(株)富士通研究所
富士電機(株)
富士電機アドバンステクノロジー(株)
富士電機システムズ(株)
プライムアースEVエナジー(株)
ブラザー工業(株)
古河電気工業(株)
古野電気(株)
(株)本田技術研究所
松下電器産業(株)
松下電工(株)
松下冷機(株)
三菱ガス化学(株)
三菱重工業(株)
三菱電機(株)
(株)村田製作所
(株)モリック
森山工業(株)
矢崎部品(株)
矢崎計器(株)
(株)安川電機
(株)山武
ヤマハ(株)
ヤマハ発動機(株)
ヤマハマシン(株)
ヤマハモーターエレクトロニクス(株)
ヤンマー(株)
(株)ヨコオ
横河電機(株)
Lattice Semiconductor
(株)リコー
(株)ルネサス小平ケミコン
(株)ルネサステクノロジ
ローム(株)

※会社名は参加当時の社名を掲載
(2019年12月現在)



第10年度運営委員(順不同・敬称略)



所属は2019年12月1日現在

役割	分科会	委員名	所属組織名
委員長	第1	平本 抽	ソニー株式会社
副委員長	第2 主 査	山口 浩二	富士電機株式会社
副委員長	第3	原島 瑞靖	富士ゼロックス株式会社
	第1 主 査	杉谷 全令	オムロン株式会社
	第1 副主査	大西 久男	大阪ガス株式会社
	第1	木村 忠正	電気通信大学名誉教授
	第2 副主査	三井 直人	三菱電機株式会社
	第2	瀬戸屋 孝	東芝デバイス&ストレージ株式会社
	第2	伊藤 卓也	株式会社タムラ製作所
	第2	横川 慎二	電気通信大学
	第2	柏木 謙一	日産自動車株式会社
	第3 主 査	岩下 健児	株式会社エンビジョンAESCジャパン
	第3 副主査	勝田 信	日本信号株式会社
	第3	門田 靖	株式会社リコー
	第4 主 査	岡本 直樹	富士ゼロックス株式会社
	第4 副主査	山下 恭幸	ヤマハ発動機株式会社



本研究会を支える委員の皆様です。信頼性・品質保証に関わるスペシャリスト集団であり、貴重な最新情報の発信、的確なアドバイスの提供、ファシリテートなどをいただきます。

参加要領

◆活動期間◆ 2020年5月～2021年3月

◆開催日程
(年7回)

回数	開催日	回数	開催日
第1回例会	2020年5月15日(金)	第5回例会	2020年11月6日(金)
第2回例会	6月5日(金)	第6回例会	2021年1月15日(金)
第3回例会	9月11日(金)	第7回例会	3月5日(金)
第4回例会	10月9日(金)		

◆会場◆ 一般財団法人日本科学技術連盟・東高円寺ビル 研修室 (東京都杉並区高円寺南1-2-1)
東京メトロ・丸ノ内線「東高円寺」駅下車・徒歩5分

◆会費◆ 一般・会員ともに 110,000円(税抜)／1名
2019年度(9RQ)研究会からの継続参加者 100,000円(税抜)／1名

※2020年度は消費税転嫁対策措置法の総額表示義務の特例により税抜価格を表示させていただいております。2019年11月現在の消費税(10%)を税抜価格とあわせて請求させていただきます。

研究会メンバー特別特典 シンポジウム、セミナーへのご優待券を進呈!

- ①2020年6月18日(木)～19日(金)に開催する「信頼性・保全性シンポジウム」へのご優待
参加費 38,000円(税抜/1名)のところ → 特別価格 18,000円(税抜/1名)
②2020年度開催の「信頼性または製品安全セミナー」へのご優待 (半額でご参加いただけます)

◆申込方法◆ 参加申込書に必要事項をご記入のうえ、E-mail、FAXまたは郵送で下記宛にお申込みください。
一般財団法人日本科学技術連盟 セミナー受付担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル4F
TEL:03-5990-5849 FAX:03-3344-3022 E-mail:regist@juse.or.jp

研究会お申込みに関するキャンセルの取扱いとお願い

研究会にお申込み後、ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代わりの方のご参加をお願いします。また、止むを得ない事由により、お客様の都合でキャンセルされる場合にはE-mailまたはFAXにて研究会第1回例会ご参加の前に連絡をお願いいたします。その際、連絡いただきました日にちにより、次のキャンセル料をご負担いただきます。

【キャンセル料】 研究会第1回例会開催日の7営業日前～2営業日前のキャンセル……………参加費の20%
研究会第1回例会開催日の1営業日前17:00までのキャンセル……………参加費の50%
研究会第1回例会開催日の1営業日前17:00以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合……………参加費の100%

※開催通知と請求書は、研究会開催の約1ヵ月～3週間前にご送付いたします。
※活動期間の途中から参加を希望される方は、下記RQ研究会担当までご連絡ください。

◆内容についてのお問合せ◆ 最新情報は日科技連ホームページをご覧ください。

<http://www.juse.or.jp/reliability/>

一般財団法人日本科学技術連盟 品質経営研修センター RQ研究会担当
TEL:03-5378-9850 FAX:03-5378-9842 E-mail:re-group@juse.or.jp

第10年度「実践！信頼性・品質技術研究会」参加申込書

FAX:03-3344-3022

●参加者 ※希望分科会は必ずご記入ください(登録後の変更可)。前年度から継続参加される方は□に✓印を付し、所属分科会を記入してください。

記入不要	希望分科会	参加者名(ふりがな)	所属・役職・E-mail
	第 分科会		所属・役職:
	継続 □ 前年度は 第 分科会所属		E-mail:

●連絡担当者 (お申込み受理後「開催通知」をお送りする方)

会社名		事業所	
所 属 職		担当者	
所在地	〒	電 話	
E-mail		F A X	
参加費	研 究 会	一般・会員ともに 110,000円(税抜) × 名 = 円 継続メンバー 100,000円(税抜) × 名 = 円	賛助会員 番 号

※お支払いにつきましては、お申込み受理後、請求書と開催通知を併せてお送りいたしますので、請求書発行後2ヵ月以内にお支払いください。
※ご記入いただきました企業・組織及び個人情報に関しましては、研究会の運営、参加申込み受付処理ならびに日科技連からの事業情報の送付のために使用させていただきます。